

天理市埋蔵文化財センターだより

Vol.29

令和元年度冬の文化財展

令和2年
2月1日(土)～
2月23日(日)

(会場)
天理市文化センター
(主催)
天理市教育委員会

平成30年度発掘調査速報展
豊田トンド山古墳の出土遺物―保存処理の成果から―
土器からみた弥生時代―水差形土器の流行―

豊田トンド山古墳の横穴式石室

空からみたヒ工塚古墳

令和元年度冬の文化財展

第Ⅰ部 平成30年度発掘調査速報展

第Ⅱ部 豊田トンド山古墳の出土遺物―保存処理の成果から―

第Ⅲ部 土器からみた弥生時代―水差形土器の流行―

令和2(2020)年2月1日(土)～2月23日(日)

※ 9:00～17:00

※月曜日、2月11日(火・祝)は休館

会場：天理市文化センター1階展示ホール

文化財講演会

会場：天理市文化センター1階展示ホール

日程：令和2年2月16日(日) 14:00～16:00

※終了後に展示解説を実施

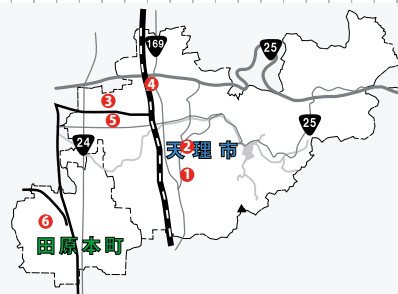
天理市内には、原始・古代から近現代に至る数多くの文化財が所在します。天理市教育委員会文化財課では、平成18年度より夏と冬、年2回の文化財展示をおこない、市内の文化財と市の歴史について理解を深めていただけるよう努めています。

今回のセンターだよりでは令和元年度冬の文化財展特集として、平成30年度に天理市教育委員会が実施した発掘調査や、同年度中に実施した古墳出土金属製品の保存処理成果をご紹介しますほか、水差形土器を通じて弥生時代の暮らしを考えます。

第Ⅰ部 平成30年度発掘調査速報展

天理市教育委員会文化財課は市内遺跡を対象とした発掘調査を実施しています。今回は平成30(2018)年度におこなった4件の発掘調査の成果と、天理大学との共同調査1件を取り上げるほか、田原本町教育委員会の調査成果のうち1件もご紹介します。

- ① ヒエ塚古墳第4次
- ② 東乗鞍古墳第3次
- ③ 小路遺跡第9次
- ④ 在原遺跡第6次
- ⑤ 平等坊・岩室遺跡第37次
- ⑥ 十六面・薬王寺遺跡第39次



ヒエ塚古墳 第4次

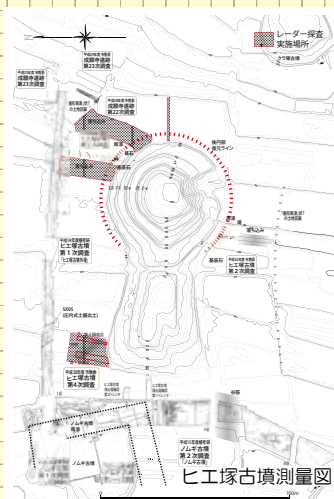
ひえづかこふん

①



期間 平成31年1月15日～
平成31年3月13日

ヒエ塚古墳は大和古墳群の北端に位置する古墳時代前期初頭に築造された前方後円墳です。後円部周囲でおこなった調査では葺石と基底石、その外側に周濠が見つかりました。今回は前方部北側での調査をおこない、南東から北西方向に古墳築造以前の谷筋を確認しました。また、戦時中のものとみられる木造施設も見つかりました。



調査区全景（北から）

東乗鞍古墳 第3次

天理市教委・天理大学共同調査
ひがしのりくらこふん

②



天理市教育委員会・天理大学は市内の埋蔵文化財に関する共同研究を実施しています。

期間 平成31年2月11日～
平成31年2月23日



空からみた東乗鞍古墳（南から）



前方部裾の調査区（北西から）

東乗鞍古墳は乙木町に所在する前方後円墳で、古墳時代後期に築造されたものと考えられています。古墳の構造や規模を知るため、平成29年度から天理市教育委員会・天理大学が共同で発掘調査に取り組んでいます。平成29年度の第2次調査に続いて実施した今回の第3次調査では、前方部西側の発掘調査を実施しました。

今回の発掘調査により前方部西側の斜面裾を確認し、前方部墳頂までの斜面全体の構成が判明しました。また、円筒埴輪片や滑石製の有孔円盤などが出土しました。

小路遺跡 第9次

しょうじいせき

③



期間 平成30年4月26日～
平成30年6月8日

宅地造成に伴い小路町で調査を実施しました。中世以降の耕作痕跡のほか、時期不明の自然流路2条を確認しました。調査地は集落縁辺部の川べりに当たるようです。



調査地遠景（北西から）

在原遺跡 第6次

ありわらいせき

④



期間 平成30年6月4日～
平成30年6月22日

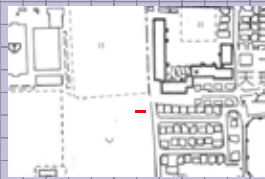
宅地造成工事に伴い、石上町内で発掘調査をおこないました。包含層からは中世以前の遺物が出土し、調査区の北端で自然流路を確認しました。



調査風景

平等坊・岩室遺跡 第37次

ひょうどうぼう・いわむろいせき 5



期間 平成31年2月6日～
平成31年2月22日

個人住宅建設に伴い岩室町で調査を実施しました。現地は弥生時代前期の環濠の存在が推定されていましたが、結果的には同前期末～中期初頭の土坑を複数確認しました。



遺物出土状況

十六面・薬王寺遺跡 第39次

田原本町教委調査

じゅうろくせん・やくおういせき 6



期間 平成31年2月12日～
平成31年3月28日

田原本町薬王寺において、宅地造成に伴う発掘調査をおこないました。弥生時代後期～古墳時代初頭の居住域を新たに確認し、大溝からは多くの土器が出土しました。



遺物出土状況

天理市教育委員会・田原本町教育委員会は文化財展示を連携して実施しています。

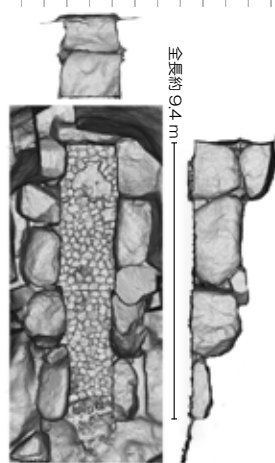
第Ⅱ部 豊田トンド山古墳の出土遺物 —保存処理の成果から—

天理市石上町・豊田町の丘陵一帯には古墳時代後期～終末期の群集墳である「石上・豊田古墳群」が広がっています。

都市計画道路の建設に伴って古墳群の南端の丘陵部分を発掘調査したところ、豊田トンド山古墳（古墳時代終末期）、豊田狐塚古墳（古墳時代後期）の2基の横穴式石室が新たに見つかりました。

平成25・26年度の発掘調査で見つかった豊田トンド山古墳は、丘陵頂上部の南斜面に築かれています。後世の山城の築城により地形が改変されていますが、墳丘は直径35m程度の円墳となるようです。

横穴式石室は天井石と側壁の一部の石材が失われていました。石室は両袖式で全長約9.4mあります。最大で一辺の長さ約3mに及び巨石を積み上げて壁面を構成し、床面には長径30cm程度の床石を敷き詰めていました。



横穴式石室陰影図
玄室は奥壁の幅約2.0m、側壁の長さ約4.9m、羨道は玄門の幅約1.7m、側壁の長さ約4.5m。



空からみた豊田トンド山古墳

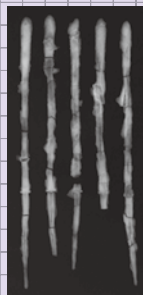


奥壁からみた横穴式石室

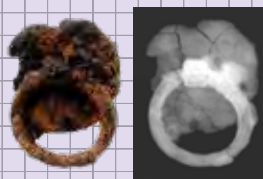
豊田トンド山古墳の副葬品（縮尺不同）



須恵器の特徴は7世紀中頃



鉄鍬のX線画像



木棺を飾る棺金具



木棺に打ち込んだ鉄釘



大刀 貴金具



大刀 鞘尻金具

豊田トンド山古墳の副葬品。石室内は盗掘を受けていましたが、玄室内を中心に細かく破砕された二上山の凝灰岩が多数出土しており、凝灰岩製の石棺が安置されていたようです。また、羨道床面にはペンガラにより赤く変色した部分があり、付近から鉄釘が多数出土していることから、羨道部に木棺が追葬されていた可能性も考えられます。石室内からは須恵器・土師器のほか鉄鍬・大刀の一部などの副葬品が出土しています。出土した須恵器等は7世紀中頃の特徴を示しています。

金属製品の保存処理。出土した副葬品には多くの金属製品（鉄製品・銀製品など）が含まれていたことから、錆による劣化を防ぐため平成30年度に保存処理を実施しました。保存処理の過程ではX線写真の撮影や各種分析をおこなうことにより、金属製品の構造や材質が明らかになることもあります。保存処理により豊田トンド山古墳の出土金属製品を恒久的に保存活用することが出来るようになりました。

第Ⅲ部 土器からみた弥生時代 ―水差形土器の流行―

弥生時代の人々は、水汲み場から住居まで水を壺に入れて運んでいました。そんな水汲みの土器として弥生時代中期後半（およそ2,000年前）に「水差形土器」が普及します。天理市では平等坊・岩室遺跡や長寺遺跡から水差形土器が出土しています。

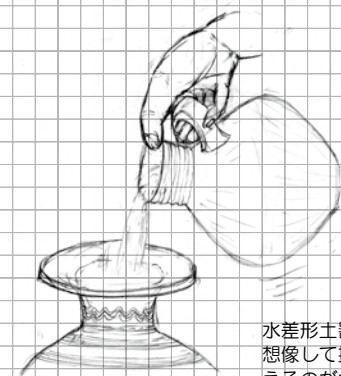
水差形土器の形態 算盤玉状に張りのある胴部、短く直立した口縁部をもち、肩部に半円形の取っ手を付けた特徴ある土器です。高さは20cm前後、水汲みに手頃な大きさです。口縁部まで壺形に成形してから取っ手を付けて仕上げます。

水差形土器の使い方 水差形土器は片手で持つことができます。取っ手を持ちながら親指を口縁部にかけ、指先と手首の微妙な動きによって流水を調節します。一般的な壺は頸部と底部を両手で支えないと水を注ぐことが難しいのですが、水差形土器は片手で扱うことができるため、水を移し替える方の土器にも片手を添えることができるのです。

暮らしの様子 弥生時代中期後半になると集落内に井戸が出現します。それまで水汲みは集落の外の川や湧水でおこない、住居まで少し長い距離を運んでいました。井戸の普及により集落内での水汲みが可能となり、そんな頃に水差形土器が流行しました。東南アジアの民俗例でみられるように、弥生時代の人々が水壺を頭にのせ、片手には水差形土器を持って水汲みにいそしんでいた様子が想像できます。



長寺遺跡出土の水差形土器



水差形土器で水を注ぐ様子を想像して描いた図。片手で扱えるのが水差形土器の利点。

出動！ 発掘現場レポート！！

令和元年度上半期の調査

天理市教育委員会は令和元（2019）年度上半期に発掘調査を3件実施しました。ここではその成果をいち早くお知らせいたします。

■前栽遺跡第10次

宅地造成工事に伴い富堂町内で発掘調査をおこないました。幅約4.8mの堀を検出し、鎌倉～室町時代の遺物が出土しています。

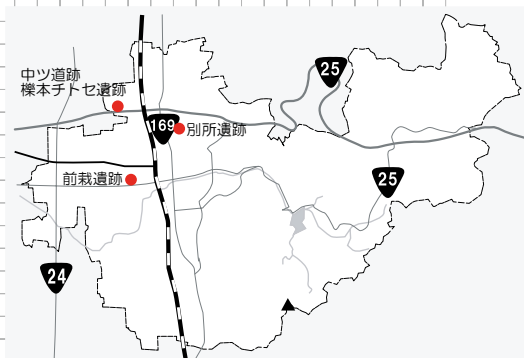
■別所遺跡第4次

市立北中学校の建て替え工事に伴い発掘調査をおこないました。包含層や溝状の遺構から古墳時代の遺物が出土しています。

■中ツ道跡・櫛本チトセ遺跡第1次

工場建設に伴い櫛本町で調査を実施しました。古墳時代前期末～中期後半の大溝や井戸、土坑のほか、中ツ道の側溝や路盤と見られる硬化層を確認しました。

令和元年度の調査成果は
来年度の文化財展で
展示するよ！



■令和元年度上半期の調査遺跡



■中ツ道跡・櫛本チトセ遺跡
中ツ道東側溝の検出状況

田原本町埋蔵文化財センターからのお知らせ

桜井市・田原本町共催シンポジウム 卑弥呼のクニを探るⅢ 要予約 延期 お問合せ 0744-32-4404
『弥生のマツリ・古墳のマツリ・唐古・鍵と縄向のマツリ～』令和2年2月24日（月・祝）会場：田原本町生涯学習センター・弥生の里ホール
唐古・鍵考古学ミュージアム お問合せ 0744-34-7100
令和2年度春季企画展 令和2年4月25日（土）～5月31日（日）

※「天理市埋蔵文化財センターだより」Vol.30は来年度夏に発行予定です。お楽しみに！

発行◆天理市教育委員会文化財課

天理市埋蔵文化財センター

〒632-0017 奈良県天理市田部町 441-2

Tel・Fax 0743-65-5720

印刷◆